

おとのはなびら

のろきかん

ピアノのおとに いろがついたら
ポロン ピアノが なるたびに
ポロン ピアノが なるたびに
おとのはなびら へやにあふれて
にわにあふれて
おとのかだんを つくるかしら



露

きたはら はくしゅう
北原 白秋



草の葉に揺れるる露の
落ちんとし、いまだ落ちぬを、
落ちよとし、見つつ待ちゐて、
落ちにけり。驚きにけり。

気になる表現を見つけてみよう

「のそり のそり」「ポロン」「落ち（んとし）」など、
同じことばがくり返し出てきます。どういう効果があ
るか、考えてみましょう。
また、ほかにも気になる表現がないか、見つけて
みましょう。

気になることばを見つけてみよう

「くにけり」や「ぬ」など、いまは使わない表現や
文字が出てきます。ことばの意味を考えながら読む
といいでしょう。

どんなようすかイメージしてみよう

これらの詩を読んで、それぞれどんなようすを描い
た詩か想像してみましよう。ふと頭にうかんだ景色
を、ことばにしてみるのもいいでしょう。

❖ 「くにけり」……「くしてしまっ
た」「くなことだ」など、気づ
きや感動をあらわす。

❖ 「ぬ」……旧かなづかいで使わ
れる字で、「い」「わ」のつぎ
をあらわす。カタカナでは「井」
を使う。

『はるのさんぽ』は、
菜の花やレンゲウ
がさく草原って感じ
だね



『おとのはなびら』は、
音を花の色にたとえ
ているのね

詩の楽しみ方を見つけよう②

詩のリズムを楽しもう

つぎの詩を読んで、詩のリズムを楽しんでみましょう。

たいこ

谷川 俊太郎

どん どん どん
 どん どん どん
 どん どん どん



ど どん どん

ど どん どん

ど どん どん

ど どん どん

ど どん どん どん どん

たい たい たい

どん どん どん どん

どこ へ いく

か っ ぱ

谷川 俊太郎

か っ ぱ か っ ぱ ら っ た

か っ ぱ ら っ ぱ か っ ぱ ら っ た

と っ て ち っ て た

か っ ぱ な っ ぱ か っ た

か っ ぱ な っ ぱ い っ ぱ か っ た

か っ て き っ て く っ た

見たこと、 感じたことを詩にしよう

感じたことを書き出してみよう

ここからは、実際に自分で詩をつくってみましょう。
まずは、まわりの風景を見て、感じたことを思いつくま
まに書き出してみます。
たとえば、空を見て、感じたことを書き出します。色、
音、におい、形など、何でもかまいません。
紙を用意して、5分間でやってみましょう。

ぜんぜん
思いうかばないや



たとえば「青」でも、
「白い雲」でも、
うかんだことなら
何でもいいんだって

5分間で、どれだけ書けましたか？
書き出したことばを、あらためて見てみま
しょう。まったくつながりのない、バラバラ
なことばがならんでいるかもしれません。
しかし、それらがみなさんの心をあらわ
しているといえるでしょう。